



田崎学舎

㊦のしく ㊧わやか ㊨れいな 我らが学び舎
【合い言葉】… 高みを求めて一歩前進

豊かな人間性を備える

校長 岩戸 淳

田崎小・中学校一貫の義務教育九年間の目標である「豊かな人間性を備え、…」に鑑み、その実現への思いをまとめます。

ヒトの赤ちゃんとは、動物の中で最も無能な状態で生まれてくると言われます。それを一人前の人間に育て上げることこそが、教育の営みであると言えるでしょう。そのためには、自己と他者との関わりという視点を欠かすことができません。

言い換えると「教育とは社会とつながる機会をつくる。」ということであり、「豊かな人間性は豊かな人間関係の中でしか培うことができない。」ということでしょう。

この世にヒトとして生を受けた私たちは親や祖父母、兄弟姉妹をはじめ、おじさん・おばさんやいとこ、近所の友達、地域のおじさんやおばさん、保育園や幼稚園・こども園・学童保育の先生、学校の先生や級友など、周りの身近な社会を自分の中に取り込んでいく過程で、徐々に社会性や人間性を身に付け、成長していくものです。

私がこの世に生を受けた昭和三十年代の後半は、まさに高度経済成長の真っ只中。

労働力が都市部へ大量に移出し、そこへの一極集中によって地域の共同体がほころびはじめた時代です。その後のグローバル化や効率化を求める社会の流れ、情報化社会の到来、そして、今も続く新型コロナウィルス等の感染拡大により、回復しつつあるものの、お互いの顔が見える緩やかなつながりであるとか、温もりのある関係づくりが失われつつあるのが現状だと捉えます。ふっと、漠然とした不安に駆られます。

うまく言い表すことができませんが、私たちは、次代の社会の構成員を育てる社会の構築から遠ざかりつつあるのではないかと、言ったら言い過ぎでしょうか。

事は、世の中全体の課題だと思えます。豊かな人間関係を広げるための輪と、次代の社会の構成員を育て上げる枠組みを、意図的に構築せねば…、とは思いませんか。身近なおとなが絶えず積極的に自他をふり返り、課題と向き合い、生き方や考え方を見つめ直すことが子供の姿に映し出されるのだと肝に銘じ、前進したいものです。